

日本臨床検査自動化学会 科学技術委員会
2019 年度第 2 回委員会議事録

1. 日時：2019 年 10 月 3 日（木）12:35～14:05
2. 場所：パシフィコ横浜 会議センター5 階 511+512 号室
（日本臨床検査自動化学会第 51 回大会会場）
3. 出席者（敬称略）：藤本、白井、三村、池田、神山、山本慶、外園、清宮、田中、
谷本、篠原、松原、高崎、柏木、御子柴、金沢、青柳、沼田、
山本裕、和田、関田、山口、川崎、汐谷、山下、山内、緒方、
春田、岡田、藤田、新井、高笠、細萱、澤部
欠席者（敬称略）：大久保、村本、河口、浅田、菊地、末吉、桑、大澤、山舘、片
岡
4. 配布資料：
資料 1：第 20 回科学技術セミナーテキスト
資料 2：2019 年度第 1 回科学技術委員会議事録
資料 3：2019 年度科学技術委員会委員名簿
資料 4：第 18 集科学技術マニュアル企画
資料 5：第 18 集マニュアル執筆要項案
資料 6：第 18 集マニュアル執筆依頼書案
資料 7：科学技術マニュアル・既刊と提案

5. 議事：

1) 報告事項

(1) 第 20 回科学技術セミナーについて（資料 1）

第 20 回科学技術セミナーが本日（10 月 3 日）15 時～17 時 30 分の日程で、5 階第一会場にて開催予定である。セミナーで講師を担当される 4 名の先生方（山本先生、和田先生、山内先生、谷本先生）から講義内容の要旨について説明があった。また、セミナーの受付に関して 4 名の先生方に応援をお願いした。

2) 審議事項

(1) 2019 年度第 1 回委員会議事録の承認（資料 2）

札幌での春季セミナー時（4 月 26 日）に開催された第 1 回委員会の議事録に関しては、すでにメール配信を実施して意見をいただいているが、改めて承認をいただきたい旨の発言が事務局よりあり、資料の通り確定することとした。

(2) 委員の変更について (資料 3)

資料に基づいて今年度の委員について説明があった。今回より、岡田元先生（安城更生病院）と藤田孝先生（藤田医科大学病院）に新規委員として参加していただくことになった（第 1 回委員会にて承認済み）。また、関東化学の高笠先生が社内事情により新井堅仁先生と交代したい旨の申し出があり承認された。さらに、松原先生から、今年度末をもって定年となるため委員を退任したい旨の発言があった。山館先生からは退任の申し出があったものの、引き続きアドバイザーとして携わっていただくことを要請し、了承をいただいたことが報告された（当日は欠席）。新任および退任される各先生方より挨拶があった。

(3) 第 18 集マニュアルの担当および刊行について (資料 4, 5, 6)

前回の会議において、テーマとして「反応タイムコース」を取り上げることは決定済みである。委員長よりマニュアルタイトルとして「自動分析装置の反応タイムコースの基礎と活用事例」の提案があり承認された。

原稿（総論、各論）については、委員、試薬メーカー、測定機器メーカー、そして各測定機器の使用ユーザーに執筆をお願いする予定である。試薬メーカーとして、富士フイルム和光純薬、関東化学、日立化成（協和メデックス）、積水メディカルに了承をいただいている。機器メーカーとしては、キヤノンメディカル、日本電子から了承いただいているが、日立ハイテクノロジーズとベックマン・コールターにも前向きに検討していただく。

原稿執筆に関する留意事項について資料を基に説明があったが、事例の記述方法に関しては、議論の結果以下の通りとすることになった。

- ① 当初案では機器メーカー別の分類になっていたが、そうすると自施設のメーカー以外は目を通さない可能性があるため、現象別・原因別にまとめる。
- ② タイムコースの記述方式は、波形が分かれば、画面コピーでもエクセル使用でもどちらでも可とする。
- ③ 測定機器のメーカー・機種名は明記する。
- ④ 試薬名称については、特定の試薬において異常反応が発生しやすいと誤って理解される可能性があることから記載しないこととし、測定項目と測定原理に留める。
- ⑤ 上記④に関する誤解を避けるため、総論においても注意点を記述する。
- ⑥ 事例の内容が重複しないように編集時に調整する。

(4) 第 19 集マニュアルの企画について (資料 7)

今後のマニュアル案として、血液ガス、尿化学検査、ヒヤリハット、日当直検査、精度管理・保証、極端値・パニック値などが候補として挙げられた。精度保証に関しては、

臨床化学会のクオリティマネジメント委員会（池田委員長）においても議論が始まっており、臨床化学会や日臨技とも連絡・調整を取りながら、数年計画で実施したい。極端値・パニック値は、臨床検査医学会で議論が開始される予定になっていて、もう少し待つことにする。今回の委員会では結論に至らなかったため、メール審議とすることになった。意見があれば委員長まで連絡して欲しい。

（５）次回委員会の開催予定

来年度の春季セミナーは４月５日（日）に沖縄で実施されるが、例年と異なり日曜日開催となるため、委員会も前日４月４日の土曜日開催となる。また、委員長の都合により時間も例年よりも早めになる予定である。

（６）その他

藤本委員長より、今後の活動に関して以下の通り発言があった。

- ・今回のセミナー発表については、マニュアルの各テーマについてさらに深く検討していただいたので、どこかの雑誌（自動化学会誌？）に投稿する方向で考えている。今年の４演題に加え昨年の４演題も含めて論文化することを検討したい。
- ・将来的には、新規の活動として研修会や実技セミナー等も考えたい。

以上

（記録：澤部）